【研究名】： パクリタキセルの過敏症反応に及ぼす要因解析について

【研究目的】
パクリタキセルという抗がん剤の点滴をした患者さんでは、潮紅（皮膚が赤みを帯びること）や呼吸困難などの過敏症反応がおこることがあります。過敏症反応がおきるかどうかは予測不能であるため、常に注意を払い迅速に対応する必要があります。そのため、パクリタキセルの過敏症反応に対する適正な支持療法*の使用、あるいは発症要因を明らかにすることは、今後の副作用モニタリングにきわめて重要になります。そこで、今回は、パクリタキセルを含む抗がん剤治療をしている患者さんを対象に、過敏症反応に及ぼす発症要因を調査します。

＊支持療法…がんに伴う痛みなどの症状緩和、がん治療による副作用の軽減を目的とする医療

【研究意義】
パクリタキセルを含む治療を行っている患者さんに対する、副作用モニタリングツール作成への活用や院内における情報の提供による薬剤適正使用への貢献が期待できます。

【調査の対象となる患者さん】
2010 年 1 月～2014 年 12 月の間にパクリタキセルを含む治療をおこなった患者さん

【方法】
調査の対象となる患者さんのカルテから、以下の項目を調べます。
性別、年齢、過去のアレルギー歴、併用薬（シスプラチン、抗アレルギー薬）、パクリタキセル投与量、デキサメタゾン投与量、アプレピタント（商品名：イメンド）の使用、がんの治療内容

【患者さんの個人情報の管理について】
「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの個人情報が外部に漏れることはありません。

【研究結果】
パクリタキセルによる過敏症反応の発現を抑制するためには、レジメンにアプレピタントが含まれる場合、デキサメタゾンの投与量を減量せずに投与することが望ましいと考えられました。（日本薬学会第 136 年会にて発表）

【研究実施体制】
研究機関： 愛媛大学医学部附属病院　薬剤部
研究責任者： 教授　荒木　博陽
研究分担者：

准教授　田中 亮裕
副部長　守口 淑秀
副部長　田中 守
主任　　河添　仁
薬剤師　佐々木　優
薬剤師　村上　聡
研究支援員　中川　美菜子

【研究に関する問い合わせ先】
本研究からご自身の情報を除いてほしいという方は、下記の連絡先までお申し出ください。
また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は下記の連絡先まで連絡をお願いします。

研究責任者：　准教授　田中 亮裕
電話番号：　089-960-5731
e-mail:　akiki@m.ehime-u.ac.jp